

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】令和 3 年 1 月 7 日 (2021.1.7)

【公開番号】特開 2019-96006 (P2019-96006A)
 【公開日】令和 1 年 6 月 20 日 (2019.6.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-023
 【出願番号】特願 2017-223929 (P2017-223929)
 【国際特許分類】

G 0 6 T 7/00 (2017.01)

G 0 6 N 3/04 (2006.01)

G 0 6 N 3/08 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 T 7/00 3 5 0 C

G 0 6 N 3/04

G 0 6 N 3/08

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 11 月 17 日 (2020.11.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 9 】

図 4 は、本実施形態に係る異常検知システムが有する構成のうち、異常検出時の動作に係る動作ステージである「検出時」に関連する構成の一例を示すブロック図である。図 4 に示した構成では、図 3 に示した構成に、P C (P e r s o n a l C o m p u t e r) のディスプレイやタブレット P C、スマートフォン、フィーチャーフォン等が適用可能な端末装置 4 0 が加わっている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 1 0 1 】

[第 2 の実施形態]

本実施形態を含む以下の各実施形態では、第 1 の実施形態との差分について説明し、以下で特に触れない限りは第 1 の実施形態と同様であるものとする。第 1 の実施形態では、データ中の物体やその状態を認識する畳み込みニューラルネットワーク (C N N) である第 1 の C N N と、さらに詳細な特徴を認識する C N N である第 2 の C N N と、があり、学習に基づいてそれらの中間の認識処理結果を統合して認識結果を得る例を示した。その際の構成の第一の例は、第 1 の C N N と第 2 の C N N とがそれぞれ一つあり、組として動作する Two-stream の構成であった。また、その他の例として、第 1 の C N N と第 2 の C N N の組が複数ある場合の構成について例示した。これらはいずれも第 1 の C N N と第 2 の C N N とが組として一対一の対応関係にあるという特徴がある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2 0】

ゼロ埋めによる複数パーツデータ成形